

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表の結果 (黒瀬)

事業者内職員においても施設についてのアンケートを行い、結果を簡単に取り纏めましたので、併せてご報告申し上げます。

【環境・体制設備】

利用定員と指導訓室等のスペースの関係性および職員の配置数に関しては、すべての職員から「はい」の回答を得ており、環境・体制設備に関しては適切であると考えられる。

バリアフリー化については、訓練室はバリアフリーになっており、階段や玄関には手すりがあるといった対応は行っている。しかしながら、現状ではバリアフリー化を必要とする利用者がいないこともあり、今後必要に応じて配慮を行っていく。

【業務改善】

⑦項目における評価以外はすべて「はい」となっている。

支援については、PDCA サイクルを活かし、熟考を重ね利用者にとって最善と認識されるよう日々改善を行っている。また、アンケート結果についても随時ホームページにて公開を行うと共に、要望に応じて紙面でも公開可能な体制を整えている。回答頂いた結果については、すべてのスタッフが目を通し、頂いたご意見を活かせるよう打ち合わせを行うようにしている。

研修会についてはスキルアップも兼ねて積極的に参加し、職員間でのフィードバックは研修内容によってさまざまな形で行っている。

⑦の「第三者による外部評価を行う」という点においては、「どちらともいえない」もしくは「いいえ」の回答だった。現時点では、保護者様の意向を反映させ、なおかつ公的機関や組織との連携を持ちながら業務の改善を図ることが出来ているためである。

よって、業務改善についても適切であると考えられる。

【適切な支援の提供】

すべての項目において、全職員が「はい」にチェックを入れていることから、各項目に応じた適切な支援を提供できているものとする。

昨年までと同様の形にて、利用契約の段階で保護者様のご協力を得て児童の適応行動を図ると共に各スタッフが意見を持ち寄り、日頃の気づきを含めた多角的な視野でサービス計画を策定している。

また、活動プログラムにおいては、ガイドラインを念頭におき、集団行動を主軸としている。プログラム内容については「静」「動」「ソーシャルスキルトレーニング」もしくは「クールダウン」を3本柱として日々活動内容の設定変更を行っている。さらに内容についても事前にスタッフ間で検証や意見交換を行いながら提供をすることで利用者の状態に合わせたプログラムの提供を心がけている。

個別活動においては、個々の力量に合わせたサポートを行うため、サポートが必要な点や支援を行いながら気づいた点を速やかにスタッフ間にて情報共有を行い、次の支援から連携が取れるよ

うな工夫を行っている。

支援計画については、定期的なモニタリングおよび保護者様からの相談をもとに更新を行い、スタッフ間でも都度ミーティングを行うことで情報の共有と多角的な視野を取り入れるよう心がけている。立案から検討、確定まで必ず複数の職員が関与するよう勤めている。

記録については、昨年夏以降紙面での記録に差し替え、紙面についてはファイルにて保管している。また昨年夏以前の記録については、PC（パーソナルコンピュータ）および紙面での保管を行っている。記録時に気づいた点やその日の気づきについては、ミーティングに参加できないスタッフにも共有可能なツールにて伝達を行い、全スタッフが情報を共通できるようにしている。

【関係機関や保護者との連携】

医療的ケアの必要な利用者がいないため具体的な体制は整えていないが、必要に応じて整えるよう検討している。服薬を行っている利用者については、保護者より情報提供いただき、把握するような体制をとっている。また、障害福祉サービス事業所へと移行する対象者がいないため、情報提供等に関しては実績がない。ただし、参考情報としてはあるが前年度で小学校を卒業し、時間の都合上利用が出来なくなった利用者については、新しい環境でも問題なくのびのびと過ごすことができているという声を頂いている。

放課後児童クラブ等との交流については、特に利用者が希望していないため実施していないが、放課後が長くとれる日や長期休暇中の公園外出などを利用して、障害の有無関係なく多くの児童や大人と交流することもある。

自立支援協議会（こども部会）には、管理者が毎回出席するように調整しており、やむを得ず管理者が出席できない場合には極力代理のものが出席するなどの配慮を行っている。

保護者様とは、送迎時においてや個別での面談および連絡帳を用いて密に連携をとり、日常的に児童の状況や課題について共通理解をもっている。

過去には保護者会において専門講師を招き、勉強会を開催し「ペアレントトレーニング」についても理解を深める機会を設けた実績もある。

【保護者への説明責任等】

契約時、運営規定や支援内容については細やかな説明を行い、保護者様からも同意を得ている。

年1回ないしは2回開催している保護者会では保護者間での交流を深めるきっかけ作りとしており、安心して利用者である児童を通所させることができるような配慮を行っている。

また、活動内容の更新はホームページや Web ツール、紙面を介し多様な方法で行っており、常に新しい情報を更新し提供している。また、どの家庭とも意思の疎通が行えるよう配慮している。

まだ苦情をいただいたことは無いが、やむを得ず生じた場合には、速やかに解決に向けた話し合いや対策を講じる体制を整備している。

個人情報については、すべて鍵付き書庫に収納し、外部に漏れないよう職員一同配慮を欠かさないようにしているとともに、見学にいらっしゃる外部の方に対しても、情報漏えい防止対策を講じている。

地域住民の招待等については、基本事項としてあいさつをしっかりと行うことで最低限の交流はあ

るが、事業所へ招待するといった行事を行うことについては、現在は行っていない。今後の課題としてどのように進めていくか検討を行っている。

【非常時の対応】

すべての項目について、対応しているという認識が職員間でしっかりと存在している。今年度は新たにフローチャートを作成し、保護者様に対してもどのような形で対応を行っていくのかを周知していただけるよう展開していく。

防災教育については、日常的にソーシャルスキルトレーニングの題材として取り上げ非常時に備えている。また、長期休暇を利用して児童も含めた実践的な訓練を行うことで、非常時に混乱をきたさないよう配慮している。

虐待防止については、研修会への参加を積極的に促し、すべての職員が明確な意識を持って職務に当たっている。

食物アレルギー有無については、定期的に情報収集を行いながら情報の更新を行っており、現時点でトラブルは生じていない。

ヒヤリハット事例集についても事業所内のわかりやすい場所に保管し、いつでも具体例が確認できるようにしている。